

「全鍍連」 2024年 2月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 久保 典史（大久鍍金工業所 代表取締役社長）

「我が町「津市」。」



「津」と聞くと世界一短い市名の町と思われませんが、中々に歴史のある町です。

津市は、古く安濃津と呼ばれ、坊津（鹿児島県南さつま市）・花旭塔津（福岡県福岡市）と並んで「日本三津」の一つとされています。

これは中国から見た重要な港であることを意味し、中国との貿易港の一つとして流通拠点の機能を果たしていたと考えられます。

室町時代から戦国時代にかけては、美杉地域を本拠とする伊勢国司北畠氏が中世都市を形成し、大変栄えました。

江戸時代に入ると、築城の名手である武将藤堂高虎が伊勢国・伊賀国の領主として入り津城を中心とした城下町として発展するとともに、伊勢参宮の街道を城下に引き入れるなど、交通の要衝として街道を整備したことにより、宿場町としてもにぎわいました。

平成 18 年には津市・久居市・河芸町・安濃町・香良洲町・一志町・白山町・美杉村の 2 市 6 町 2 村の市町村合併を行い、現在の津市に至っています。

私は津市で生まれ育っておりますが、この町には約 380 年の歴史がある 10 月に開催される「津まつり」というものがあります。

私はこの「津まつり」に携わっており、地域の発展、文化の振興、地区の神事などの為に技を伝承し、伝統を築いている郷土芸能 16 団体がパレードや郷土芸能の集いなどで演奏・演技を披露しています。

郷土芸能 16 団体のひとつ津 高虎太鼓は今年 50 周年を迎えました。私も 25 年所属しており、今回はこの伝統芸能についてご紹介いたします。

「津 高虎太鼓」は 1973 年に津青年会議所の記念事業として発足しました。

津藩主で“築城の名手”と謳われた『藤堂高虎』の功績を紡いだ楽曲演奏を中心に活動していましたが、音楽監督 金子圭佑氏の急逝により活動の方向性を見失いかけてました。

この出来事をきっかけに私たち会員自らの手による創作和太鼓グループとして再起し現在に至っています。



地元の大祭「津まつり」への参加をはじめ、定期演奏会・海外演奏などの単独公演を行うほか、県・市の代表として中高生を中心とした若手トップチームが和太鼓コンクールへの出場を目指すなど意欲的な活動を通じて、研鑽・交流の輪を全国へ広げています。

近年では、県内の介護施設への慰問や小学校・特別支援学校等を対象とした和太鼓の魅力を伝える演奏体験活動（ワークショップ）にも取り組んでいます。

現在会員は 150 名。青少年の健全育成と情操教育を目的に和太鼓音楽の心と技を磨きながら、津市の郷土芸能の一翼を担っています。

私もこの伝統ある行事の古き良しきたりを受け継ぎ、また新たなる挑戦、取り組み、その活動を通じて色々な方々との交流を深め、地域の発展に貢献してまいりたいと思っております。